

日本簿記学会ニュース

No. 35:7 / 2003

《部会の経過報告》

第19回関西部会は2003年5月24日(土)に同志社大学(準備委員長:瀧田輝己氏)にて、第19回関東部会は2003年6月21日(土)に早稲田大学(準備委員長:長谷川茂氏)にて開催されました。関西部会の詳細は本紙関西部会記をご覧ください。関東部会記は次号に掲載する予定です。

《大会のご案内》

第19回全国大会のスケジュールを下記の通りに決めましたので、お知らせ致します。

(電車時刻の改正等により、時間が前後することもあります)

開催日 2003年8月30日(土)～31日(日)

場 所 高崎商科大学(群馬県高崎市)

統一論題 『日本産業の近代化と簿記』

統一論題・報告 15時10分～16時55分

『日本産業の近代化と簿記』

座 長 安藤英義

報告者 小野寺敏郎・清水泰洋

西川登・石原裕也

懇親会 18時00分～20時00分

ホテル・メトロポリタン(高崎駅前)

第1日(8月30日)

会員総会 12時40分～13時40分

研究部会報告 13時40分～15時00分

簿記理論研究部会

「偶発事象の簿記処理」

簿記教育研究部会

「勘定科目に関する研究」

簿記教育研究部会

「簿記教育におけるE-Learningの有用性に関する研究」

簿記実務研究部会

「工業会計システムの現状と課題」

第2日(8月31日)

自由論題報告 10時30分～12時20分

高校における簿記教育懇談会 10時30分～12時20分

公開講演 13時30分～14時30分

講演者 今井幹夫氏(富岡市立美術博物館館長)

『日本の近代化と富岡製糸場』

統一論題・討論 14時40分～16時00分

《平成14・15年度研究部会のメンバー追加》

平成14・15年度研究部会のメンバーが下記の通り追加されました。なお、現在、入会申請中の方を含みます。

簿記理論研究部会「偶発事象の簿記処理」部会長:山下寿文(佐賀大学)

追加メンバー:岩崎 勇(九州大学), 長吉真一(立正大学), 青柳薫子(香蘭女子短期大学)

簿記実務研究部会「工業会計システムの現状と課題」部会長:山田庫平(明治大学)

追加メンバー:手嶋竜二(明治大学非常勤)

簿記教育研究部会「簿記教育におけるE-Learningの有用性に関する研究」部会長:木本圭一(関西学院大学)

追加メンバー:小津稚加子(静岡県立大学), 阿部 仁(福山大学), 岸田賢次(名古屋学院大学)

日本簿記学会第19回関西部会記

準備委員長 瀧田輝己
同志社大学

日本簿記学会第19回関西部会は、平成15年5月24日(土)に同志社大学(今出川キャンパス)において開催された(参加者73名)

統一論題報告に先立って、準備委員長から歓迎の挨拶、ならびに「21世紀を迎えてすでに3年になるが、最近の会計を取り巻く環境は急激に変化しており、とりわけ、エンロンやワールドコム事件によって、会計に対する信用が失墜している今日、原点に帰って簿記の未来の展開を考えることは有意義であると思う」と、今回、統一論題を「21世紀における簿記の展開」とした理由が説明された。続いて、司会および座長の徳賀芳弘氏(京都大学)、報告者の川端保至氏(同志社大学)、藤田敬司氏(立命館大学)、柴健次氏(関西大学)の紹介があり、統一論題報告に入った。各報告者の報告要旨は次のとおりである。

川端保至氏は「ドイツ初期株式会社社会計から見た展開」というテーマで、19世紀ドイツの約530社の定款を研究対象にドイツにおける資産評価規定をめぐる議論を紹介し、その中で、当時のドイツは売却時価評価から取得原価へという流れにあったことを指摘した。また、初期の株式会社社会計実務と法規定の変遷を明らかにすることで、21世紀の簿記会計の展開を考える手がかりを提供することができるとして、資産の取得原価に代えて21世紀に時価評価を導入するには、名目資本維持利益計算に代わる新たな簿記会計理論の提示が必要であると結んだ。

藤田敬司氏は1999年、米国証券取引委員会(SEC)が公表したStaff Accounting Bulletin (SAB)101号(‘Revenue Recognition in Financial Statements’)から読み取れる米国企業の早期収益認識傾向に対する警告には、今後のわが国の会計実務において指針とすべきものがあると指摘し、わが国でもSAB101号を踏まえて収益認識に関する会計処理の見直しは必要であり、21世紀の簿記のあり方を探る一つの糸口になるのではないかと示唆した。

柴健次氏はコンピューターによるネットワーク化はデータベースの分散化を可能にし、距離的な制約を取

り払うことによって、自由な簿記の展開を予想させるが、反面データベースへの不正なアクセスによる損失に備えるためのセキュリティ対策が重要視されてきており、そのことがデータベースに制約を加え、簿記の発展の方向を左右するかもしれないとし、さらに、伝統的簿記の本質とは異なる本質を有する未来簿記の形成は自由に簿記を実験することでもありと主張して結びとした。

以上の報告の後、コーヒープレイクを間に挟んで、各氏の報告に関して、討論会が行われた。討論会では、主に、21世紀における簿記の展開を決定する要因は何かということをめぐる活発な予定時間をはるかに越えて質疑応答が交わされた。

三人の報告者の立脚点が、過去、現在、未来に分かれ、日ごろの研究成果を踏まえて21世紀の簿記の展開を予測されたので、それぞれ中身の濃い報告となったことに加え、このテーマに関して、参加した会員のそれぞれの問題意識が非常に高かったためと思われるが、レベルの高い討論会となった。今回のテーマは、簿記学会において、今後繰り返し議論されなければならないと思いつつ閉会とした。

(注)各報告者の報告要旨については原田保秀氏(四天王寺国際仏教大学)および松脇昌美氏(四日市大学)の記録に負っている。



リーガーにみる研究と教育

香川大学 井原理代

リーガー(Rieger,W.)の会計学説に出会ったのは、三十年余り前の大学院時代にさかのぼる。二十世紀の会計観を支配した動態論を確立したシュマーレンバッハ(Schmalenbach,E.)の徹底した批判者として、会計学説史上埋れがちであったリーガーに関心を持ったのである。彼の見解を特徴づけるものとして、期間計算はゲーテに倣えば「真実と詩の混合」であり、真実ならざる性格であることを浮き彫りにしたことがあげられる。その意味するところを解き明かしたく願いながら、未だ果たせず恥じる思いである。簿記観についていえば、勘定記入を一義的に貨幣転換過程を示すものと捉える特異な見解であり、それに彼の期間計算観が依拠することは明らかながらも、その特異性にはなお判じ難いところが残っている。

このようにリーガーは特徴ある、特異な見解を展開しているが、ある意味で当然に、研究や教育についても独自のものがみられる。研究や教育のあり方が大きく揺れ動く大学改革のただなかにある今、その考え方や有り様について顧みてみたい。

リーガーの研究について、彼の名著『私経済学入門』(Einführung in die Privatwirtschaftslehre, Nümburg, 1928)で「貸借対照表の解明を改革的提案を結び付けることなく与えようとする」ものであると明言している。彼は、終始理論的研究を貫くのであるが、その学問的態度に関して、リーガーの弟子であるエンダーレン(Enderlen,E.)は次のように述べている。「(リーガーによれば)研究者の仕事とは休みなき探求、検証、吟味にほかならず、その結果とは絶え間なき視野の拡大、すなわち諸関連の認識を明解にすることである」と。その結果、ハゼナック(Hasenack,W.)は「鋭敏なる思想家リーガーの……行こうとする(これは同時にしばしば<切りかかろうとする>と同義である)ところには、もはや草一本生えないといってよい。……しかし、チュービンゲンにおけるリーガーの私経済学の学派の仕事が、抽象的思考の鋭さと論理的推論の点で、多くの経営経済学の手本となるということに異論の余地はない」と表明している。

このようなリーガーの学問的姿勢を端的に表す出来事があったといわれる。それは、1932年リーガーとゲルトマッハー(Geldmacher,E)が会議の休憩時間に交わした短い会話である。その会議は、経済危機とその克服手段をめぐるものであったが、それに関して、ゲルトマッハーは、助言者として、経営体のためによい助言をし学問的な仕事が決して空疎な暇つぶしでないことを示さなければならないと述べたのに対し、リーガーは首を振って、「それは学問とは関係がない」といった。そこでゲルトマッハーが「もし家が火事になったら、あなたはどのようにするのですか。あなたは人々が命を落とし、財産を失うのを傍観したまま何もしないのですか」と説明を求めたのに対し、リーガーは全く動じずに、こう答えたという。「首をつっこんで水バケツを振り回すのは学者のすべきことではない。学者のすべきことは、出来事を第三者として観察し記録することだ。これがうまくできれば、……火事の克服に際して何が間違っ て行われたかを引き出すことができる」と。

このようにあくまで理論家としての立場を貫いたリーガーであるが、教育においてもきわめて熱心で、講義を論文や公務等より最も重要なものと考えていたという。大学のある同僚は、リーガーは一週間のすべてを進行中の講義の準備に費やしていたと語ったとされ、事実、彼の話しぶりの分かりやすさ、叙述の明確さ、表現の魅力、言葉のおもしろさは目を見張らせるものがあったということである。しかし、指導の厳しさも一流で、ゼミの発表者が徹底的にうちのめされて座っていることもあったし、またチュービンゲン大学のゼミでは「経済資料演習」という名で、実例が検討に付されることもあったが、そのありふれた営業報告だけで、2時間が緊張に満たされる状況であったとのことである。

このようにみると、リーガーの研究態度も教育姿勢もきわめて興味深いものがあり、なお彼に取り組んでみたいと思うところである。

〔参考文献〕

Zur Würdigung der Persönlichkeit von Wilhelm Rieger als Forscher und Lehrer, *Die Unternehmung im Markt, -Festschrift für Wilhelm Rieger zu seinem 75. Geburtstag*, Stuttgart und K. ln, 1953, ss.293-311.

日本簿記学会設立当時を振り返って

東京都立短期大学 氏原茂樹

日本簿記学会ニュースに掲載される随筆執筆の打診を頂き、当初は私でよいのかどうか内心とまどいましたが設立間もない頃の幹事の1人として当時を思い出して書けばよろしいということでしたのでお引き受けをさせて頂きました。学会運営の裏方の経験もないままに故郷村剛雄教授をはじめとする多くのご高名な先生方の御指導のもと幹事として貴重な勉強をさせて頂くことになった。一方、同僚の方々の側面からのご援助がなければ到底9年間のながきにわたって幹事を務めることが出来なかったものと思われます。個々にお名前を挙げてお礼を申し上げるべきところですが、紙幅の関係で割愛させて頂きこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

1. 創立総会

昭和60年1月19日、明治大学において設立総会が開催され、日本簿記学会が設立された。

広く開かれた学会にしたいという当時の中心メンバーの先生方のお考えで、業績等の入会資格を設けず2名の推薦者があれば入会できるという開かれた学会として設立され、これまで運営されている。したがって、会員としては、大学のほか、高等学校、専門学校で簿記会計の教育・研究に携わっている方や公認会計士・税理士の方々も多数入会されている。理事の構成については、大学関係者、高等学校、専門学校、職業会計人、その他に一定数を設け理事会での発言の機会の公平化をはかっている。

2. 第1回大会

昭和60年10月12日、成蹊大学(準備委員長:新井益太郎、初代会長)で第1回大会が行なわれた。午前中は、3会場に分かれて自由論題の報告が行なわれた。午後は、会員総会の後、シンポジウムが、統一論題『簿

記理論・教育・実務をめぐる諸問題』というタイトルのもとで開催され、その後、夕刻からは懇親会が盛大に催された。

3. 研究部会

研究部会は、第1回の理事会で3領域の部会が認められ、当初の座長は次の先生方がご担当された。簿記理論研究部会(座長:中村忠)、簿記教育研究部会(座長:大藪俊哉)、簿記実務研究部会(座長:神森智)。これらの3研究部会は、現在も充実した研究活動を続けている。

4. 会員の移動

設立時(昭和60年1月19日)の会員総数は、正会員443名、準会員24名、賛助会員19法人であった。現在(平成14年9月6日全国大会時)は、正会員936名、準会員44名、賛助会員28社となり、かなり会員数が増加している。

5. 機関紙等

日本簿記学会の機関紙としては、学会誌編集委員会のご尽力により、「日本簿記学会年報」が刊行されている。また、日本簿記学会の会員相互間の情報伝達手段として、「日本簿記学会ニュース(このタイトルの筆跡は、故郷村剛雄元副会長によるとお聞きしている)」が発行されている。

6. 事務局

事務局は、明治大学におかれ、当初はワープロ(コンピュータ以前)もなくすべての事務処理が新進気鋭の学徒による手作業で行われていた。現在は(株)白桃書房に主要な事務処理を委託している。

日本簿記学会事務局 連絡事務所は、次のとおりである。

〒101-0021 東京都千代田区外神田5-1-15

株式会社 白桃書房内

e-mail boki@hakutou.co.jp

(注)本稿の執筆にあたっては、日本会計研究学会編「日本会計研究学会50年史」の他に「日本簿記学会年報」、「日本簿記学会ニュース」を参照させて頂いた。

事務局からのお知らせ

《会費振込のお願い》

本年度(2003年度)の会費を下記の口座にお振り込みください。昨年度より口座番号が変更になっております。ご注意ください。

口座番号 00190-9-23806 加入者名 日本簿記学会

発行所
編集兼
発行人

日本簿記学会事務局

連絡事務所

〒101-0021 東京都千代田区外神田5-1-15

株式会社白桃書房

e-mail boki@hakutou.co.jp